参考資料３　新庁舎の災害時の可変性

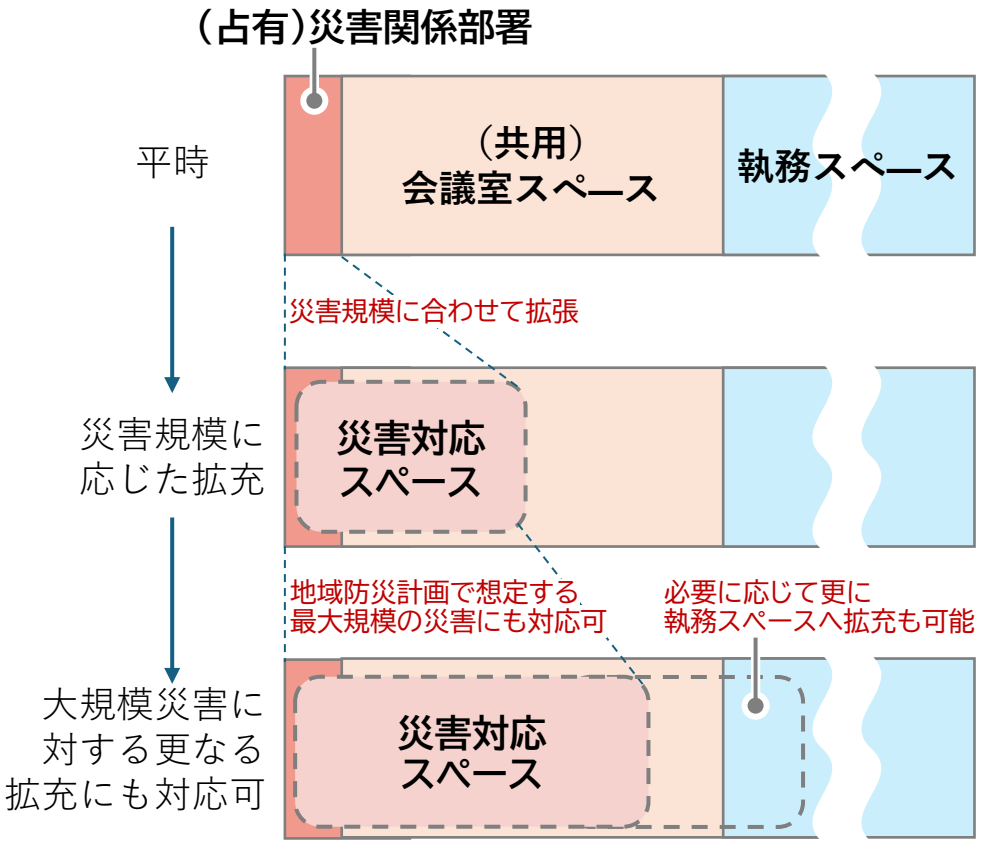
①災害対応スペースの「災害規模」に応じた可変性

新庁舎では、現庁舎の課題である「大規模災害時の災害対応スペース不足」を解消し、必要面積を確保する。
ただし、面積の効率化を図るため、災害対応スペースは平時には共用会議室等として活用し、災害規模に応じて段階的に拡充できる計画としている。

②低層部共用スペースの「フェーズ」に応じた可変性

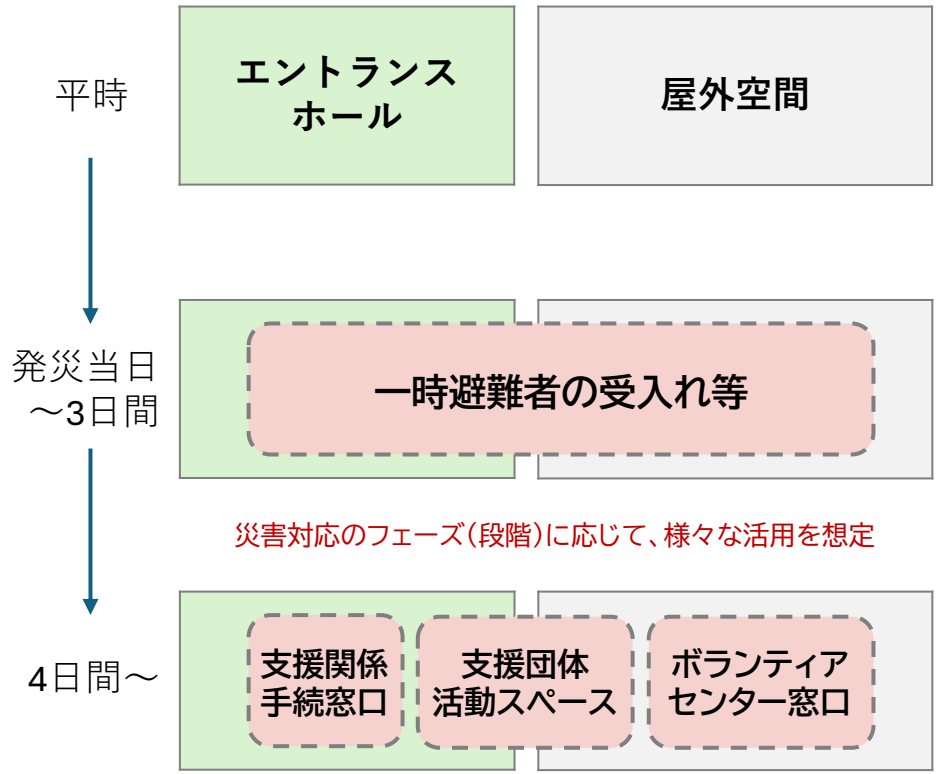
新庁舎では、エントランスホールなどの低層部共用スペースについては、災害対応のフェーズ（段階）に応じて、様々な活用を想定している。

①災害対応スペースの「災害規模」に応じた可変性



②低層部共用スペースの「フェーズ」に応じた可変性

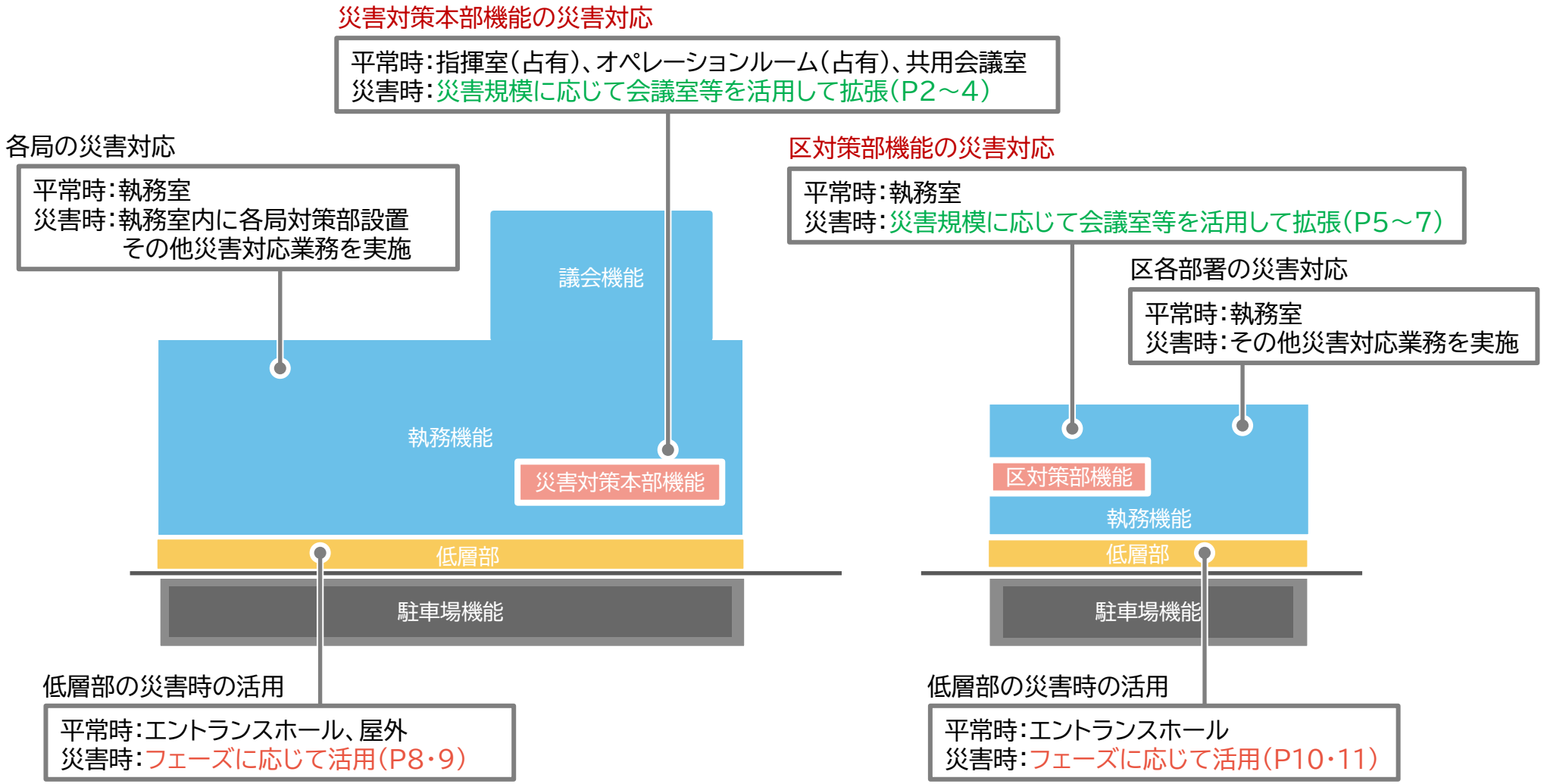
※記載の活用は例であり、災害状況に応じて柔軟に対応することを想定



次ページ以降に、第１０回新庁舎整備基本計画検討分科会で示した「参考資料３ 災害時の可変性」を参考として添付する。

参考資料３　新庁舎の災害時の可変性

（１）配備態勢・フェーズに応じた活動範囲の想定



【　本庁舎・議会の断面構成　】

【　中央区の断面構成　】

※上記構成はイメージであり、具体的な配置は基本設計段階で整理を行います

参考資料３　新庁舎の災害時の可変性

（２）配備態勢に応じた活動範囲の想定［ 本庁舎 ］

平常時 | 配備態勢 レベル2 | 配備態勢 レベル3 | 配備態勢 レベル4 | 配備態勢 レベル5

◘ 水防本部・災害警戒本部の設置

部屋名	面積	備考
② オペレーションルーム（占有）	120㎡	・占有スペースとして確保

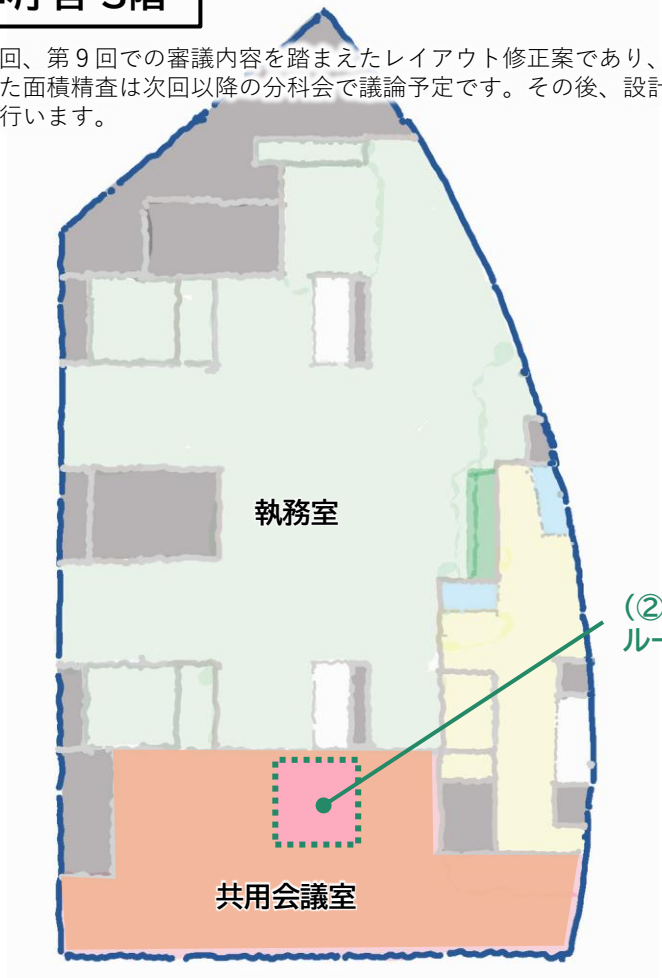
［レベルごとの災害規模と災害対応状況］

配備態勢	災害規模	災害対応状況	
		水防本部・災害警戒本部 職員配置人数	受援・リエゾン 配置の有無
平常時	平常時	0名	無
レベル2 情報収集態勢	大雨、土砂災害、氾濫、高潮に関する注意報発表など	3名（災害警戒本部） 3～6名（水防本部）	無
レベル3 初動準備態勢	大雨、土砂災害、氾濫、高潮に関する警報発表など	6名（災害警戒本部） 15名（水防本部）	無
レベル4 応急活動準備態勢	震度5弱の地震発生など	26名（災害警戒本部）	無
レベル4強化 災害警戒態勢	津波警報発表、震度5強の地震発生など	60名（災害警戒本部）	無
レベル5 災害対応態勢	大津波警報の発表など	137名（災害対策本部）	有
レベル5強化 全庁総力態勢	震度6弱以上の地震発生など	137名（災害対策本部）	有

引用：熊本市地域防災計画　令和8年度（2026年度）版

本庁舎 3階

※ 第８回、第９回での審議内容を踏まえたレイアウト修正案であり、レイアウト案を用いた面積精査は次回以降の分科会で議論予定です。その後、設計段階にて詳細検討を行います。



第10回新庁舎整備基本計画検討分科会での資料（参考資料３　災害時の可変性）を抜粋

参考資料３　新庁舎の災害時の可変性

（２）配備態勢に応じた活動範囲の想定［ 本庁舎 ］

平常時 | 配備態勢 レベル2 | **配備態勢 レベル3** | **配備態勢 レベル4** | 配備態勢 レベル5

◘ 水防本部・災害警戒本部の設置

部屋名	面積	備考
② オペレーションルーム（占有）	120㎡	・占有スペースとして確保
③ オペレーションルーム（共用）	60～110㎡	• 平時の共用会議室を転用 • 災害規模に応じて拡充

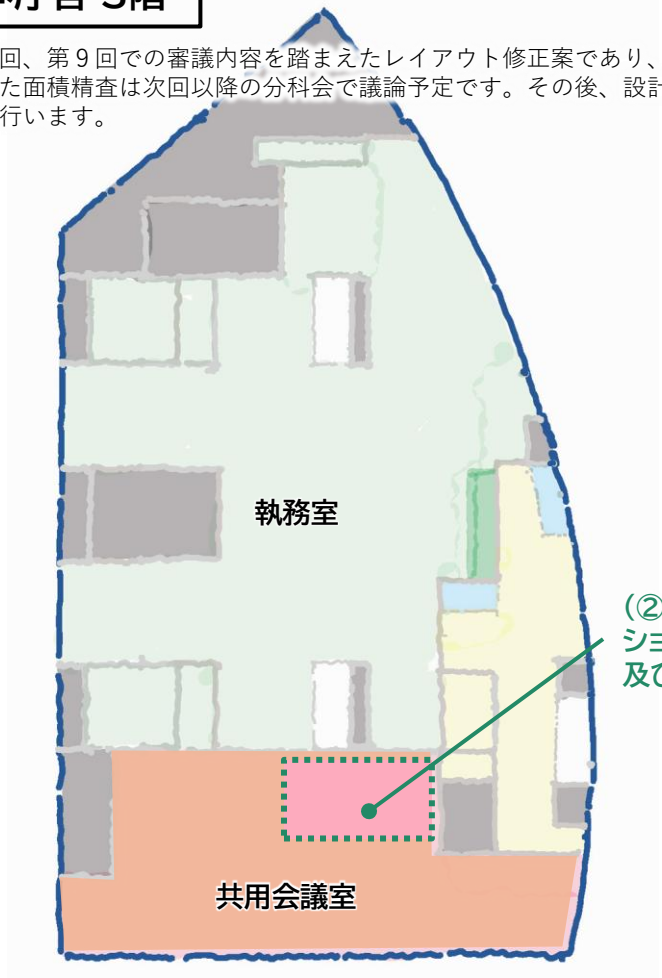
［レベルごとの災害規模と災害対応状況］

配備態勢	災害規模	災害対応状況	
		水防本部・災害警戒本部 職員配置人数	受援・リエゾン 配置の有無
平常時	平常時	0名	無
レベル2 情報収集態勢	大雨、土砂災害、氾濫、高潮に関する注意報発表など	3名（災害警戒本部） 3～6名（水防本部）	無
レベル3 初動準備態勢	大雨、土砂災害、氾濫、高潮に関する警報発表など	6名（災害警戒本部） 15名（水防本部）	無
レベル4 応急活動準備態勢	震度5弱の地震発生など	26名（災害警戒本部）	無
レベル4強化 災害警戒態勢	津波警報発表、震度5強の地震発生など	60名（災害警戒本部）	無
レベル5 災害対応態勢	大津波警報の発表など	137名（災害対策本部）	有
レベル5強化 全庁総力態勢	震度6弱以上の地震発生など	137名（災害対策本部）	有

引用：熊本市地域防災計画　令和8年度（2026年度）版

本庁舎 3階

※ 第８回、第９回での審議内容を踏まえたレイアウト修正案であり、レイアウト案を用いた面積精査は次回以降の分科会で議論予定です。その後、設計段階にて詳細検討を行います。



参考資料３　新庁舎の災害時の可変性

（２）配備態勢に応じた活動範囲の想定［ 本庁舎 ］

平常時 | 配備態勢 レベル2 | 配備態勢 レベル3 | 配備態勢 レベル4 | **配備態勢 レベル5**

◘ 水防本部・災害警戒本部の設置

部屋名	面積	備考
① 指揮室	180㎡	• 占有スペースとして確保
② オペレーションルーム（占有）	120㎡	
③ オペレーションルーム（共用）	340㎡	• 平時の共用会議室（1階にも配置）を転用 • 災害規模に応じて執務スペースまで拡充
④ リエゾン活動調整室	550㎡	
⑤ 受援用スペース	540㎡	

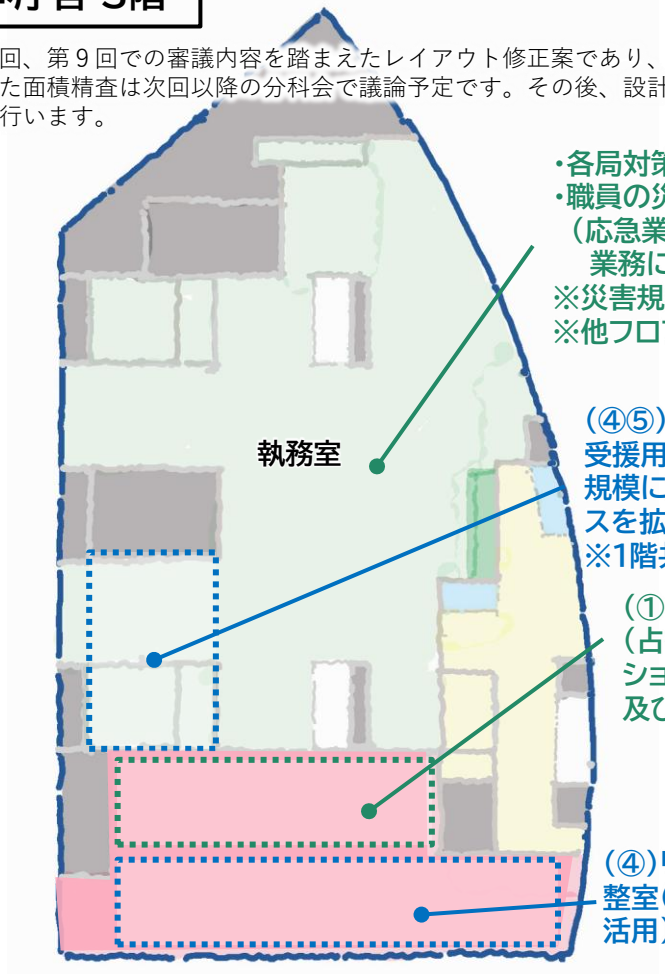
［レベルごとの災害規模と災害対応状況］

配備態勢	災害規模	災害対応状況	
		水防本部・災害警戒本部 職員配置人数	受援・リエゾン 配置の有無
平常時	平常時	0名	無
レベル2 情報収集態勢	大雨、土砂災害、氾濫、高潮に関する注意報発表など	3名（災害警戒本部） 3～6名（水防本部）	無
レベル3 初動準備態勢	大雨、土砂災害、氾濫、高潮に関する警報発表など	6名（災害警戒本部） 15名（水防本部）	無
レベル4 応急活動準備態勢	震度5弱の地震発生など	26名（災害警戒本部）	無
レベル4強化 災害警戒態勢	津波警報発表、震度5強の地震発生など	60名（災害警戒本部）	無
レベル5 災害対応態勢	大津波警報の発表など	137名（災害対策本部）	有
レベル5強化 全庁総力態勢	震度6弱以上の地震発生など	137名（災害対策本部）	有

引用：熊本市地域防災計画　令和8年度（2026年度）版

本庁舎 3階

※ 第８回、第９回での審議内容を踏まえたレイアウト修正案であり、レイアウト案を用いた面積精査は次回以降の分科会で議論予定です。その後、設計段階にて詳細検討を行います。



第10回新庁舎整備基本計画検討分科会での資料（参考資料３　災害時の可変性）を抜粋

参考資料３　新庁舎の災害時の可変性

（３）配備態勢に応じた活動範囲の想定［ 中央区役所 ］

平常時 | 配備態勢 レベル2 | 配備態勢 レベル3 | 配備態勢 レベル4 | 配備態勢 レベル5

■ 区水防部・区警戒部の設置はなし

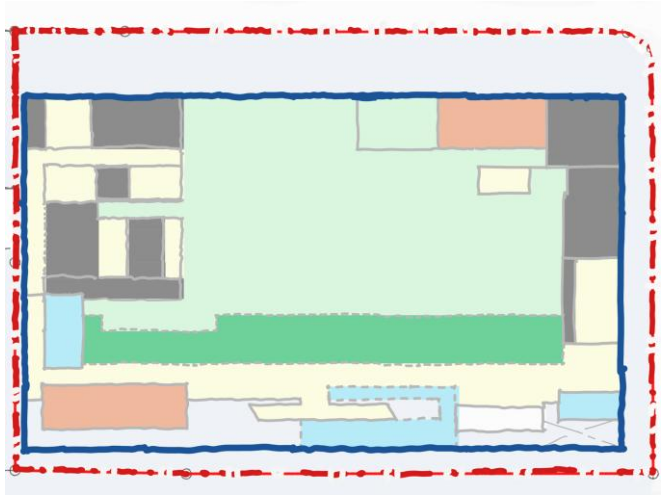
［レベルごとの災害規模と災害対応状況］

配備態勢	災害規模	災害対応状況	
		区水防部・区警戒部職員配置人数	受援・リエゾン配置の有無
平常時	平常時	0名	無
レベル2 情報収集態勢	大雨、土砂災害、氾濫、高潮に関する注意報発表など	0名	無
レベル3 初動準備態勢	大雨、土砂災害、氾濫、高潮に関する警報発表など	2名（区水防部・区警戒部）	無
レベル4 応急活動準備態勢	震度5弱の地震発生など	5名（区警戒部）	無
レベル4強化 災害警戒態勢	津波警報発表、震度5強の地震発生など	13名（区警戒部）	無
レベル5 災害対応態勢	大津波警報の発表など	29名（区対策部）	有
レベル5強化 全庁総力態勢	震度6弱以上の地震発生など	29名（区対策部）	有

引用：熊本市地域防災計画　令和8年度（2026年度）版

中央区役所　4階

※ 第８回、第９回での審議内容を踏まえたレイアウト修正案であり、レイアウト案を用いた面積精査は次回以降の分科会で議論予定です。その後、設計段階にて詳細検討を行います。



【凡例】
駐車スペース　打合せスペース　共用部　執務室
災害対応スペース　会議スペース　交流・共創　倉庫・書庫・その他諸室・設備
議会棟　相談・待合スペース　窓口

（３）配備態勢に応じた活動範囲の想定［ 中央区役所 ］

平常時 | 配備態勢 レベル2 | **配備態勢 レベル3** | **配備態勢 レベル4** | 配備態勢 レベル5

◘ 区水防部・区警戒部の設置

部屋名	面積	備考
区水防部・区警戒部	10～50㎡	・執務室を活用（災害規模に応じて拡張）

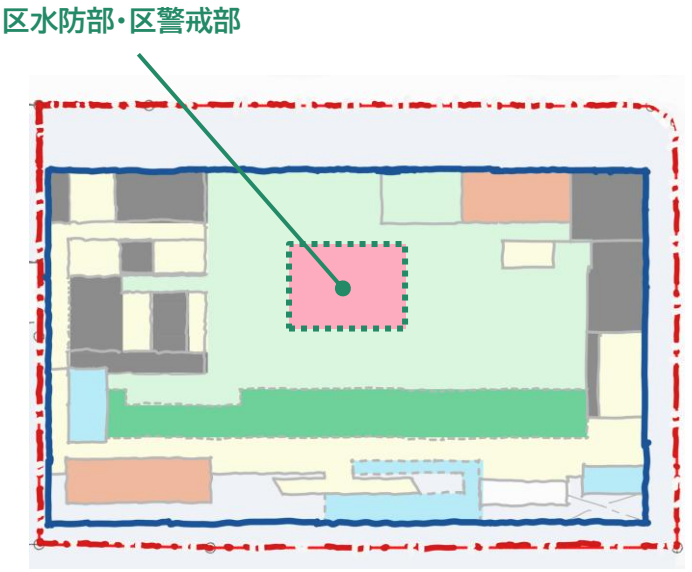
［レベルごとの災害規模と災害対応状況］

配備態勢	災害規模	災害対応状況	
		区水防部・区警戒部職員配置人数	受援・リエゾン配置の有無
平常時	平常時	0名	無
レベル2 情報収集態勢	大雨、土砂災害、氾濫、高潮に関する注意報発表など	0名	無
レベル3 初動準備態勢	大雨、土砂災害、氾濫、高潮に関する警報発表など	2名（区水防部・区警戒部）	無
レベル4 応急活動準備態勢	震度5弱の地震発生など	5名（区警戒部）	無
レベル4強化 災害警戒態勢	津波警報発表、震度5強の地震発生など	13名（区警戒部）	無
レベル5 災害対応態勢	大津波警報の発表など	29名（区対策部）	有
レベル5強化 全庁総力態勢	震度6弱以上の地震発生など	29名（区対策部）	有

引用：熊本市地域防災計画　令和8年度（2026年度）版

中央区役所　4階

※ 第８回、第９回での審議内容を踏まえたレイアウト修正案であり、レイアウト案を用いた面積精査は次回以降の分科会で議論予定です。その後、設計段階にて詳細検討を行います。



参考資料３　新庁舎の災害時の可変性

（３）配備態勢に応じた活動範囲の想定［ 中央区役所 ］

平常時 | 配備態勢 レベル2 | 配備態勢 レベル3 | 配備態勢 レベル4 | **配備態勢 レベル5**

◘ 区対策部の設置、受援体制の構築

部屋名	面積	備考
受援用会議室	130㎡	・共用会議室（1階にも配置）を転用
区対策部	110㎡	・執務室を転用

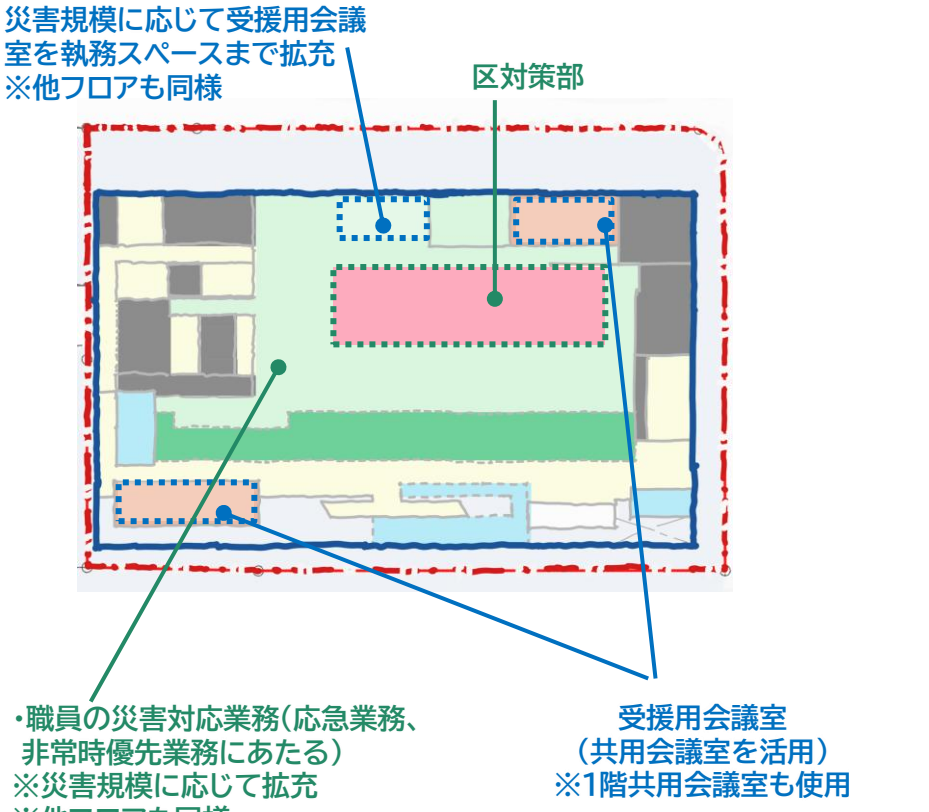
［レベルごとの災害規模と災害対応状況］

配備態勢	災害規模	災害対応状況	
		区水防部・区警戒部職員配置人数	受援・リエゾン配置の有無
平常時	平常時	0名	無
レベル2 情報収集態勢	大雨、土砂災害、氾濫、高潮に関する注意報発表など	0名	無
レベル3 初動準備態勢	大雨、土砂災害、氾濫、高潮に関する警報発表など	2名（区水防部・区警戒部）	無
レベル4 応急活動準備態勢	震度5弱の地震発生など	5名（区警戒部）	無
レベル4強化 災害警戒態勢	津波警報発表、震度5強の地震発生など	13名（区警戒部）	無
レベル5 災害対応態勢	大津波警報の発表など	29名（区対策部）	有
レベル5強化 全庁総力態勢	震度6弱以上の地震発生など	29名（区対策部）	有

引用：熊本市地域防災計画　令和8年度（2026年度）版

中央区役所　4階

※ 第８回、第９回での審議内容を踏まえたレイアウト修正案であり、レイアウト案を用いた面積精査は次回以降の分科会で議論予定です。その後、設計段階にて詳細検討を行います。



第10回新庁舎整備基本計画検討分科会での資料（参考資料３　災害時の可変性）を抜粋

参考資料３　新庁舎の災害時の可変性

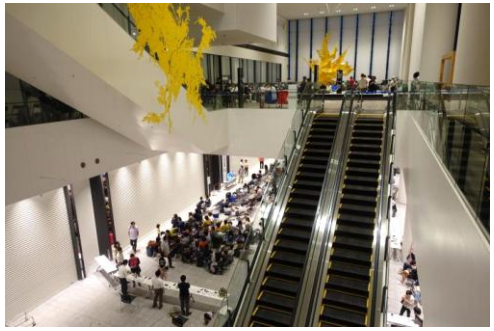
（４）フェーズに応じた低層部の活用［ 本庁舎 ］

フェーズ１（発災当日（24時間以内））→ フェーズ２（発災24時間後～3日まで）→ フェーズ３（発災4日目～1週間まで）→ フェーズ４（発災1週間後～2週間まで）→ フェーズ５（発災2週間後～1カ月まで）

□ 一時避難者の受け入れ

	受入可能数	面積	備考
屋内	約400人	約660㎡	災害発生時における大規模な帰宅困難者等の発生への対策に関するガイドライン(R8.1)の計算方法にて算出。「床面積約3．3㎡当たり2人の収容(必要な通路等の面積は算入しない)」
屋外	約500人	約820㎡	

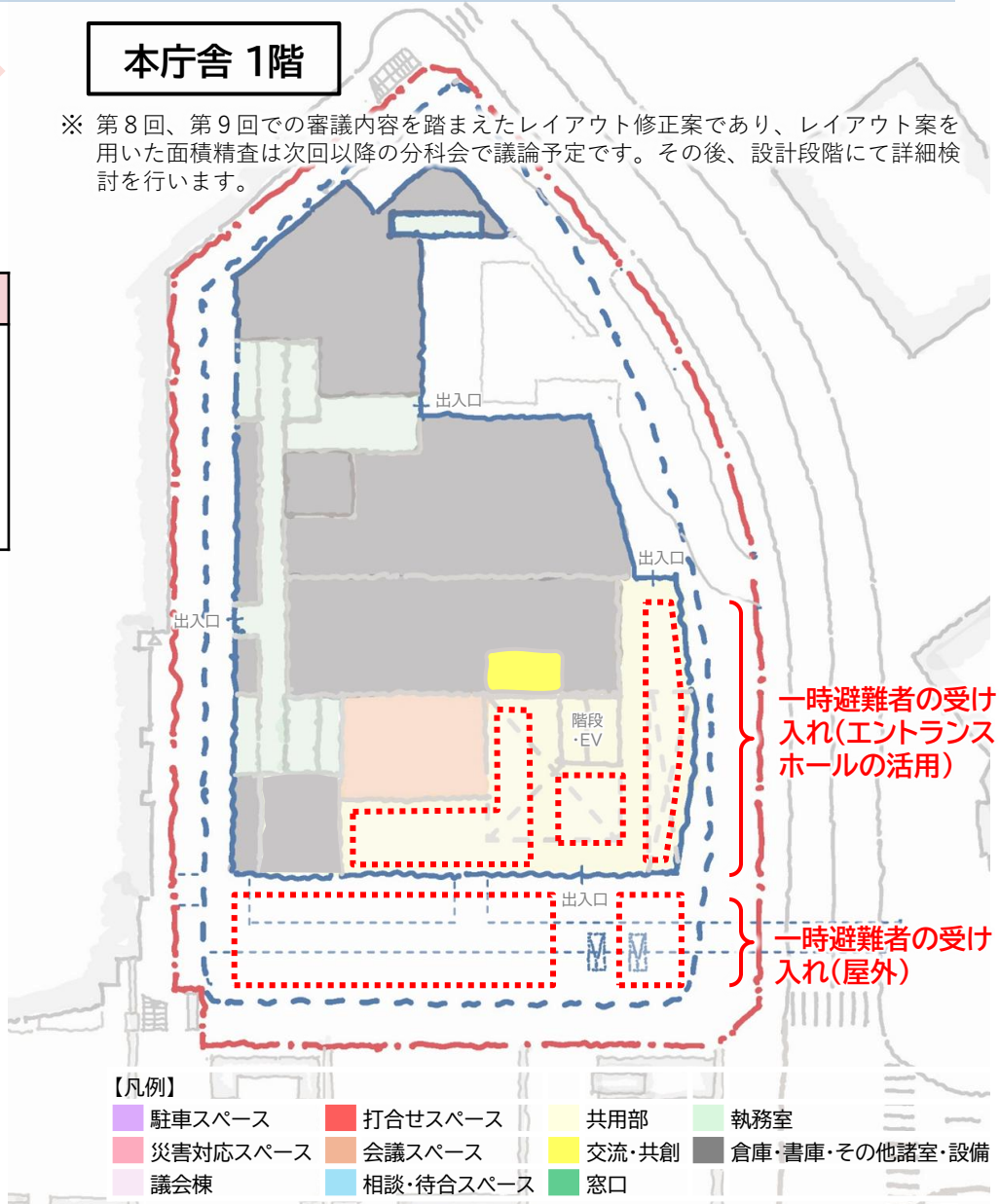
帰宅困難者一時滞在状況



出典：札幌市危機管理課HP

本庁舎 1階

※ 第８回、第９回での審議内容を踏まえたレイアウト修正案であり、レイアウト案を用いた面積精査は次回以降の分科会で議論予定です。その後、設計段階にて詳細検討を行います。



第10回新庁舎整備基本計画検討分科会での資料（参考資料３　災害時の可変性）を抜粋

参考資料３　新庁舎の災害時の可変性

（４）フェーズに応じた低層部の活用［ 本庁舎 ］

フェーズ１	フェーズ２	フェーズ３	フェーズ４	フェーズ５
発災当日（24時間以内）	発災24時間後～3日まで	発災4日目～1週間まで	発災1週間後～2週間まで	発災2週間後～1カ月まで

◘ 被災者支援、復旧復興活動

①支援手続きの窓口スペースの設置



出典：熊本災害デジタルアーカイブ
提供者：東京都葛飾区

②災害ボランティアセンターの補完機能



出典：熊本災害デジタルアーカイブ
提供者：新潟県新潟市

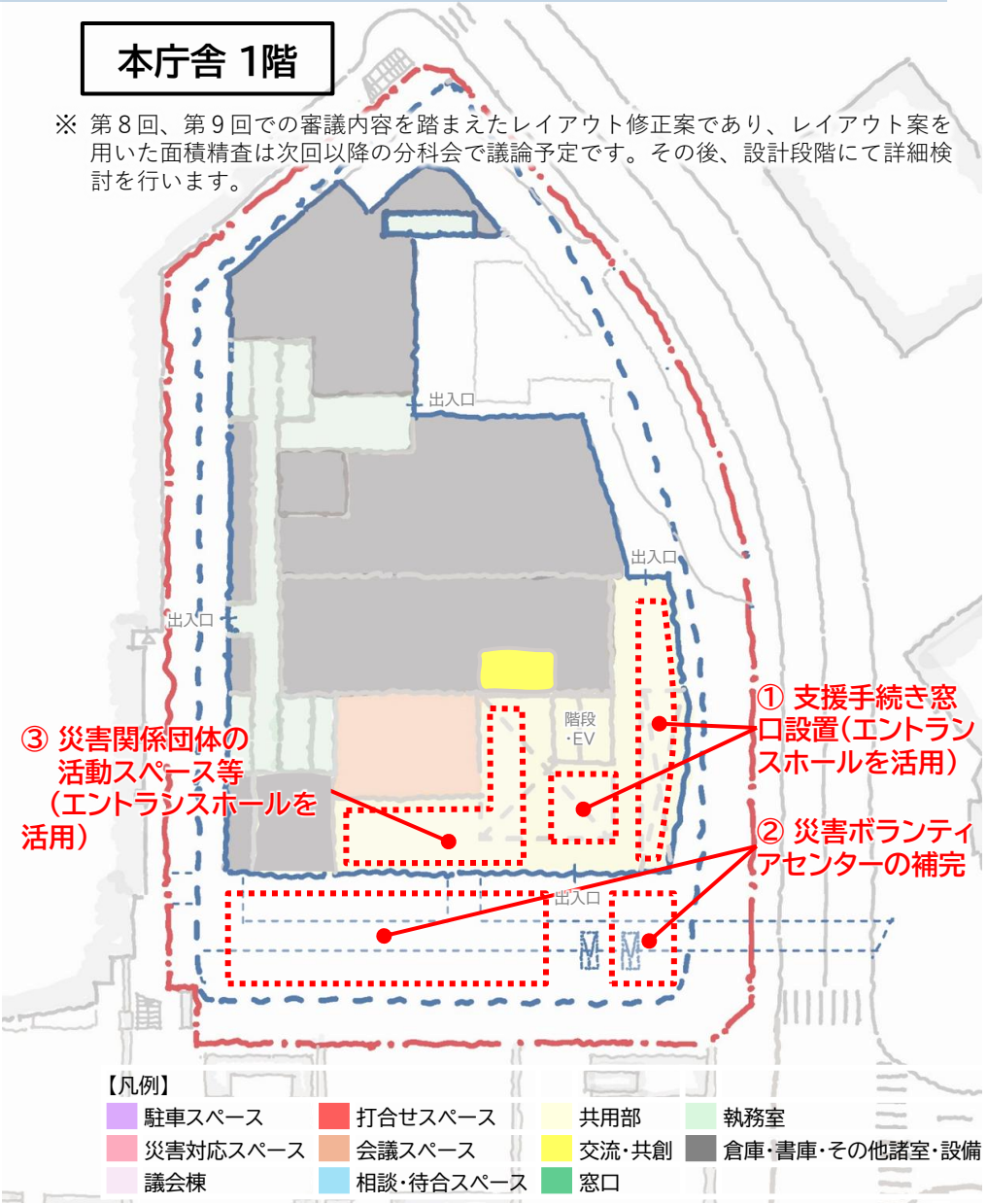
③災害ボランティア団体等の活動スペース等



出典：令和６年能登半島地震アーカイブ
提供者：石川県

本庁舎 1階

※ 第８回、第９回での審議内容を踏まえたレイアウト修正案であり、レイアウト案を用いた面積精査は次回以降の分科会で議論予定です。その後、設計段階にて詳細検討を行います。



第10回新庁舎整備基本計画検討分科会での資料（参考資料３　災害時の可変性）を抜粋

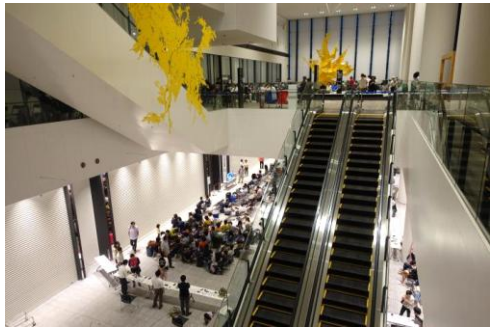
（５）フェーズに応じた低層部の活用［ 中央区役所 ］

フェーズ１（発災当日（24時間以内））　フェーズ２（発災24時間後～3日まで）　フェーズ３（発災4日目～1週間まで）　フェーズ４（発災1週間後～2週間まで）　フェーズ５（発災2週間後～1カ月まで）

□ 一時避難者の受け入れ

	受入可能数	面積	備考
屋内	約60人	約100㎡	災害発生時における大規模な帰宅困難者等の発生への対策に関するガイドライン(R8.1)の計算方法にて算出。「床面積約3．3㎡当たり2人の収容(必要な通路等の面積は算入しない)」

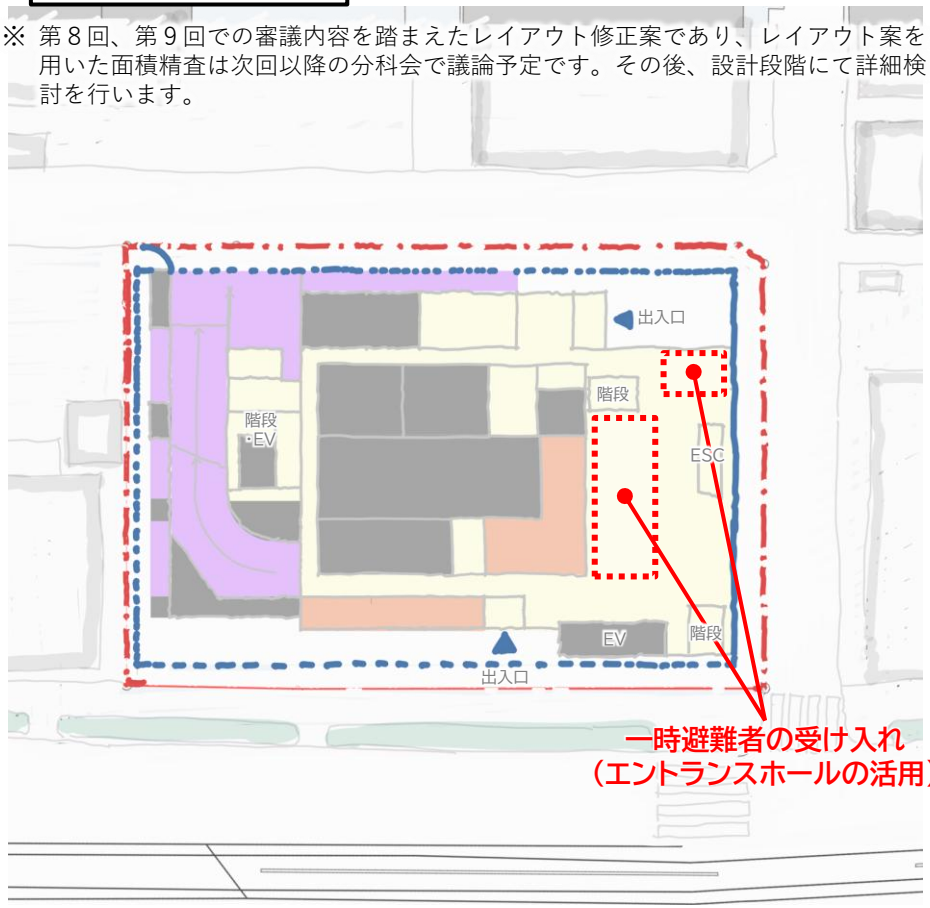
帰宅困難者一時滞在状況



出典：札幌市危機管理課HP

中央区役所　1階

※ 第８回、第９回での審議内容を踏まえたレイアウト修正案であり、レイアウト案を用いた面積精査は次回以降の分科会で議論予定です。その後、設計段階にて詳細検討を行います。



【凡例】
駐車スペース　打合せスペース　共用部　執務室
災害対応スペース　会議スペース　交流・共創　倉庫・書庫・その他諸室・設備
議会棟　相談・待合スペース　窓口

参考資料３　新庁舎の災害時の可変性

（５）フェーズに応じた低層部の活用［　中央区役所　］

フェーズ１	フェーズ２	フェーズ３	フェーズ４	フェーズ５
発災当日（24時間以内）	発災24時間後～3日まで	発災4日目～1週間まで	発災1週間後～2週間まで	発災2週間後～1カ月まで

□　被災者支援、復旧復興活動

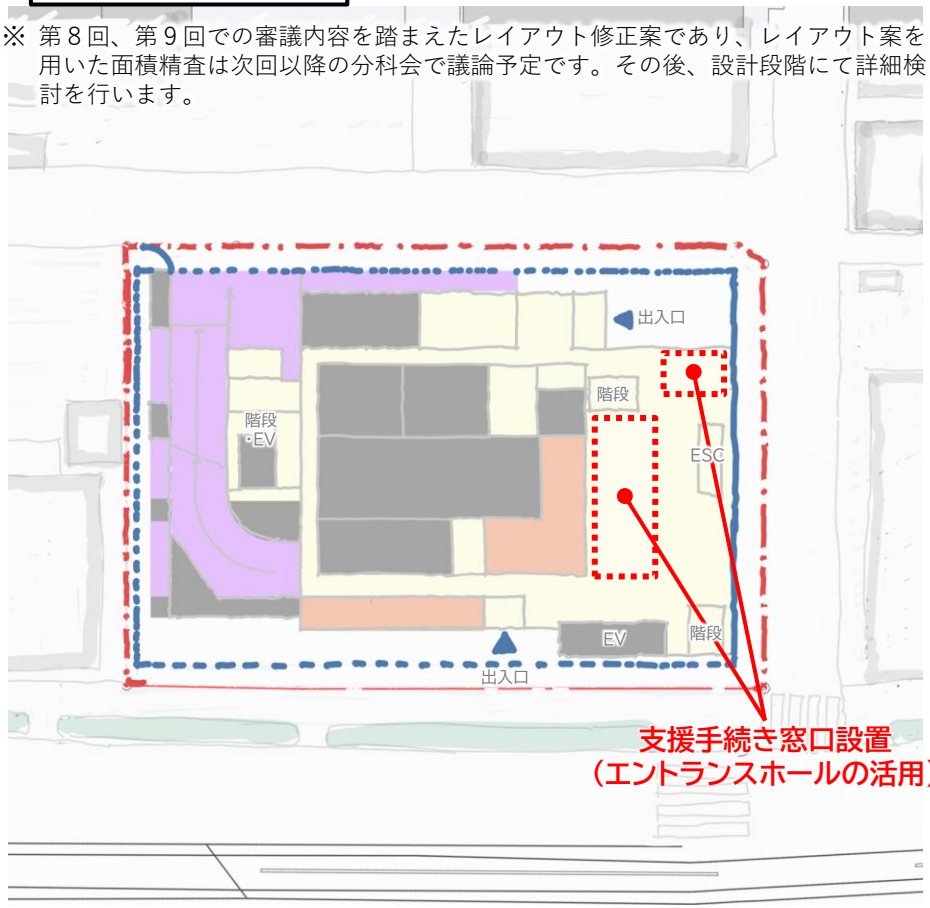
①支援手続きの窓口スペースの設置



出典：熊本災害デジタルアーカイブ
提供者：東京都葛飾区

中央区役所　1階

※ 第８回、第９回での審議内容を踏まえたレイアウト修正案であり、レイアウト案を用いた面積精査は次回以降の分科会で議論予定です。その後、設計段階にて詳細検討を行います。



【凡例】
駐車スペース　打合せスペース　共用部　執務室
災害対応スペース　会議スペース　交流・共創　倉庫・書庫・その他諸室・設備
議会棟　相談・待合スペース　窓口